

東京八王子ビートレイنز ホームゲーム運営

活動場所

エスフォルタアリーナ八王子
メインアリーナ

2021年10月9日（土）

報告

学外での久々のプログラム実施

10月9日（土）、エスフォルタアリーナ八王子メインアリーナにて、「東京八王子ビートレイنزのホームゲーム運営」のボランティアプログラムを実施しました。

東京八王子ビートレイنزとは「Bリーグ（プロバスケットボールリーグ）」の3部に所属するプロバスケットボールチームです。ホームゲーム2連戦（対山口ペイトリオッツ線）の2日目、前日8日は80-69で今シーズン初勝利！！となり、2連勝に向けて士気が上がっている日でした。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の延長などの影響で、学外でのスポーツボランティアプログラム実施が中止、もしくは延期といった状況が続いていたので、活動できること自体も楽しみでした。今回は、学生5名、職員2名で携わらせていただきました。

開場までの準備

まずは、観客の皆さんに受付で渡すチラシ類のセット組を始めました。試合、チーム関連等の複数のチラシをセット組み、袋に詰めるという準備ですが、不足なく、限られた時間でなるべくたくさんセットするということは、簡単そうで工夫が必要です。どうやったら手早く詰めていけるか考えながらしていききました。



セット組みの後、受付で行うことの確認を行いました。受付では、荷物チェックのあと、検温、アルコール消毒、チケットもぎり、抽選券の配布、チラシの入った袋のお渡し、を行います。荷物チェック以外はボランティアスタッフでの対応です。スムーズな入場のため、それぞれの役割が立つ位置も考えて、準備していききました。

最後にスタッフの方から伝えられたこと、それは、観客の皆さんに「いらっしゃいませ！こんにちは。」と声をかけてお出迎えして欲しいということです。とても大切なことを教えていただいたように感じました。



開場…「いらっしゃいませ！」

11時前ぐらいになると、少しずつ観客らしき姿が見えてきました。少し緊張しながらも、今から始まろうとしているホームゲームを考えると、ワクワクするような気持ちもありました。観客席は1階、2階とあったため、分かれて受付の体制に入りました。11時を過ぎると、東京八王子ビートレイنزをととても応援されていることが一目見て分かる観客の方が入って来ました。

さあ、始めましょうか。「いらっしゃいませ！」



最初は少し気恥ずかしさがある中で声をかけ始めました。少し慣れてくると、どのぐらいの大きさの声で言ったらいいんだろう、もっと大きくてもいいんだろうか、と考えながら声をかけられるようになりました。また、チケットをもぎらせていただく時にかける言葉、チラシの入った袋をお渡する時にかける言葉なども考えながらできるようになりました。

観客の年代層は様々で、小さな子供もいました。小さな子どもには、スタッフの方が事前に準備していた飴をお渡ししました。飴をお渡しすることで、スタッフの方は、小さな子どもがどのくらい来られていたか知ることができるとい話をお聞きしました。私たちも、子どもの嬉しそうな姿を見ることができ、些細に見えても運営の工夫だと感じました。入場者数が確定したあと、渡した飴の数はスタッフの方にお伝えしました。

開場から30分、1時間と時間が経つにつれ、観客はどんどん増えていきましたが、私たちも慣れてきて、スムーズな対応ができるようになっていきました。もぎったチケット半券の枚数を見て、改めて東京八王子ビートレイنزが地域でとても応援されていることを感じました。同時に、様々な角度からの検討、準備、配慮があってチームや試合の運営がされていることを感じました。

試合開始！



12時を過ぎるとオープニングイベントが始まりました。トークショーやRaily'sのパフォーマンスがあり、会場内が盛り上がり始めました。

そして13時…いよいよ試合開始！試合が始まると観客の出入りは少なくなりましたが、ハーフタイムなどでトイレに行かれる方もありましたので、会場入口のドアのところに立ち、出入りの際の案内を行いました。合間では試合も見せていただきましたが、生で見るプロチームの試合は迫力もあり、楽しむ時間もいただきました。

試合結果は、79-65で東京八王子ビートレインズの勝利！！2連勝となりました。

試合終了後

「ありがとうございました！」と言いながら観客の皆さんを送り出したあと、会場の撤収に入りました。観客席や床のシート、選手が紹介されているのぼりの旗、応援やスポンサーの横断幕、会場やバスケットゴール設営のために使っていた木の台などをすべて片づけ、その後ゴミ拾い、モップがけまで行いました。

会場の撤収をしながら感じたことは、一日のホームゲーム運営だけでも、どれだけの手間と労力がかかっているか、ということです。表に見える華やかな場面の裏には、支える人たちがたくさんいるということ、実感しました。また、スタッフの方々は様々な方面に気を配りながらも、私たちボランティアスタッフに対して「どんなニーズを持っているか」をきちんと伝えてくれましたし、試合終了後は共に撤収作業を行い、私たちボランティアスタッフに対して、感謝の気持ちを伝えて下さいました。「ありがとう！」という言葉で疲れが軽減され、運営に携われたことをとても嬉しく思いました。



振り返りの時間

今回のプログラム実施を通して新たな気づきがあったり、対面での活動だからこそ感じるこのできたものがあったりしました。そして何より、「運営」について考える機会になりました。この経験から得たものを、自分たちがプログラム運営するときに活かせるようにしたいという話をしながら、活動を締めくくりました。

プログラムメンバーの声

・初めての本格的なボランティア活動で不安も多かったのですが、スタッフの方々が細かく指示を出してくださっていたので、終わりまで仕事をすることができたように思います。事前の計画や情報共有の重要性を感じました。入場や退場の案内は、自分たちが運営することになったときにどうすればいいのか考える、よい参考になりました。

・プロスポーツチームの裏側を見るのは初めてだったので、どれだけ多くの人に関わっているのかを実感することができた。運営には非常に多くの手間がかかっており、とても大変だったが、観客が楽しんでいる姿を見ることが、大変さを和らげることができた。観客のイレギュラーな要望に対しては初めはうまく答えることができなかったのは反省点だった。

・笑顔で接することができて良かった。ネクサスの方を見ていて、声の張り方が違うな、と感じた。スポーツボランティアの場合、表情だけではなく、声にも気付けなければいけないと気づけた。また、ボランティア参加者同士の挨拶も、私が思っていたよりも元気が良く、経験したことがない場面だった。

・全体的にとっても成長できたと思う。チケットを確認する列が混んでいるときでも、わかりやすく簡潔に丁寧に説明することや、お客さんが荷物検査を最初にやるというシステムが分かりづらそうだったので自分から声かけするなど積極的に動けたことがとても良かった。私にとってはお客さんの1人でも、お客さんにとってはスタッフの対応はその後の気分も左右するものだと思うので、流れ作業ではなく、もっと一人一人に丁寧に対応できるようにしたいと思った。試合の様子をみていると、1プレー1プレーに、人気チームの試合と同じぐらいの熱気が選手にも観客にもあって、とてもいいチームだと思えた。そんなチームに貢献できたことが嬉しく、また、お客さんに会釈を返してもらったり、感謝の気持ちを言ってもらいとても暖かい気持ちになった。お客さんの笑顔を見てみると地域の活性化にも貢献できたのではないかと考えた。